

## 第1回「かごしま未来創造ビジョン」南薩地域懇談会

日時：6月28日（火）

午後2時～4時

場所：南薩地域振興局

第2・3会議室

### 会 次 第

#### 1 開会のあいさつ

#### 2 議 事

- (1) 「かごしま未来創造ビジョン」南薩地域懇談会の設置について 資料1
- (2) 「かごしま未来創造ビジョン」及び「地域振興の取組方針」の改訂について 資料2
- (3) 南薩地域の現状・課題について 資料3
- (4) 意見交換

#### 3 閉 会

「かごしま未来創造ビジョン」南薩地域懇談会委員名簿

| 所属                       | 役職   | 氏名     |
|--------------------------|------|--------|
| 公益社団法人枕崎市医師会             | 会 長  | 尾辻 和彦  |
| 南薩地区校長協会                 | 副会長  | 鬼塚 富貴子 |
| 一般社団法人鹿児島県<br>建設業協会加世田支部 | 支部長  | 桑畑 昭三  |
| 枕崎市漁業協同組合                | 専務理事 | 白窪 義広  |
| NPO法人颯娃おこそ会              | 理事長  | 中村 浩美  |
| 南さつま農業協同組合               | 理 事  | 西 明美   |
| 南さつま商工会議所                | 副会頭  | 西 浩二   |
| 公益社団法人指宿市観光協会            | 理 事  | 細川 ゆり  |
| 南薩地域振興局                  | 局 長  | 竹内 文紀  |

## 「かごしま未来創造ビジョン」南薩地域懇談会設置要綱

## (設置)

第1条 平成31年3月に策定された「南薩地域 地域振興の取組方針」(以下「取組方針」という。)について、「かごしま未来創造ビジョン」の改訂を踏まえた見直しについて必要な助言を得るため、「かごしま未来創造ビジョン」南薩地域懇談会(以下「懇談会」という。)を設置する。

## (所掌事務)

第2条 懇談会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 取組方針の見直しに当たっての協議・助言等
- (2) その他南薩地域振興局長(以下「局長」という。)が特に必要と認めること

## (組織)

第3条 懇談会は、委員9名で組織する。

2 委員は、南薩地域振興局管内に在住する有識者等のうちから局長が指名し委嘱する。

## (任期)

第4条 委員の任期は、取組方針の策定の日までとする。

## (座長)

第5条 懇談会に、座長を置き、局長がこれを務める。

2 座長は、会務を総括する。

3 座長が不在のときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

## (会議)

第6条 懇談会の会議(以下「会議」という。)は、座長が招集する。

2 座長は、会議の議長となり、議事を整理する。

3 会議には、必要に応じ関係職員を出席させ、関係事項について説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

## (報償費及び旅費)

第7条 委員には、報償費及び旅費を支給することができる。

## (会議の公開)

第8条 会議は公開を原則とする。

## (庶務)

第9条 懇談会の庶務は、南薩地域振興局総務企画課において処理する。

## (雑則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

## (解散)

第11条 懇談会は、取組方針の策定の日をもって解散する。

## 附 則

この要綱は、令和4年5月10日から施行する。



## 「かごしま未来創造ビジョン」及び「地域振興の取組方針」の改訂について

### 1 「かごしま未来創造ビジョン」の改訂について

#### (1) 基本的な考え方

- ① 前回のビジョン策定(2018年3月)以降の社会経済情勢の変化への対応が必要  
  - ・新型コロナウイルス感染症の拡大
  - ・デジタル化
  - ・地方回帰
  - ・カーボンニュートラル
  - ・SDGs など
- ② 県政発展の基盤づくり  
    ⇒「稼ぐ力」を向上させ、県民所得の向上を図ることが必要
- ③ 若者等の県内定着と大都市からのU Iターンの促進  
    ⇒地域資源の磨き上げと情報発信、若者にとって魅力的な仕事や暮らしやすい社会をつくる必要がある

①～③を踏まえ、

☆「時代の潮流にも的確に対応できる社会、安心・安全で持続可能な地域社会、高齢者や女性、障害者、子ども、外国人など、あらゆる方々が生き生きと活躍できる、誰ひとり取り残さない社会を構築する」

そのために、概ね10年後の鹿児島が目指す姿を、

☆「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島」とし

その実現のために「未来を拓く人づくり」、「暮らしやすい社会づくり」、「活力ある産業づくり」に取り組み、これらの好循環を生み出すことにより、目指す姿を実現する。

このような課題に県民一丸となって取り組むため、鹿児島の現状を踏まえ、行政課題や挑戦すべきテーマを明確にし、体系的に整理した上で、中長期的観点から、本県のあるべき姿や今後の県政の進むべき基本的な方向性、戦略を県民の皆様に分かりやすく示すことが大切との認識のもと、今般、ビジョンの改訂がなされたもの。

#### (2) かごしま未来創造ビジョン(改訂版)に示された時代潮流と鹿児島の現状・課題

- ① 人口減少・少子高齢化の進行
- ② 経済のグローバル化の進展と社会経済環境の変化
- ③ Society5.0の実現に向けたデジタル化の推進
- ④ グリーン社会・エネルギー問題への対応
- ⑤ 国土強靱化・災害リスクへの対応
- ⑥ 価値観・ライフスタイル等の変化や地方回帰の動き
- ⑦ 地域のつながりや教育・子育て環境の変化
- ⑧ 地域課題の多様化・複雑化
- ⑨ 持続可能な財政構造
- ⑩ SDGsの推進

## 2 「地域振興の取組方針」の改訂について

### (1) 位置づけ及び見直しの趣旨

- ・ 「地域振興の取組方針」は、「かごしま未来創造ビジョン」を補完し、ビジョンに沿って、それぞれの地域における特有の課題や取組方針を示すもの
- ・ 今回の「地域振興の取組方針」の改訂は、現行の取組方針の策定後、新型コロナウイルス感染症の拡大、デジタル化の進展など、社会経済情勢が大きく変化し、これらへの対応が必要となってきたことから、「地域振興の取組方針」についても、改訂後のビジョンに沿って見直しを行うもの

ビジョンの地域版である「地域振興の取組方針」については、南薩地域特有の課題を十分に踏まえながら、改訂後の「かごしま未来創造ビジョン」に沿って、南薩地域の「目指す姿」を示すとともに、地域において力を入れて取り組むべき「施策展開の方向性」について取りまとめたものにしたいと考えています。

### (2) 見直しに当たった意見聴取

地域の有識者、県議会議員、各分野で新たな取組を行っている方や地域の現場の最前線で活躍している方々、管内各市等と意見交換しながら策定

### (3) 策定スケジュール

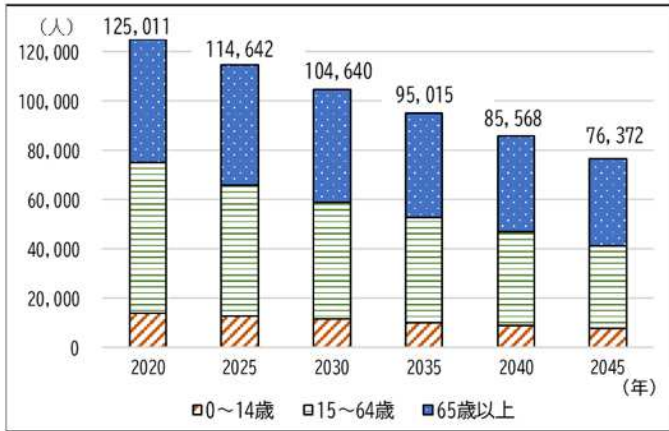
令和5年3月末の策定に向けて地域懇談会を3回開催

- ・ 第1回（6月28日） 現状と課題等について
- ・ 第2回（10月上旬予定） 取組方針の素案について
- ・ 第3回（11月下旬予定） 取組方針の案について

## 1 進行する人口減少・少子高齢化への対応

### 将来推計人口

【管内】



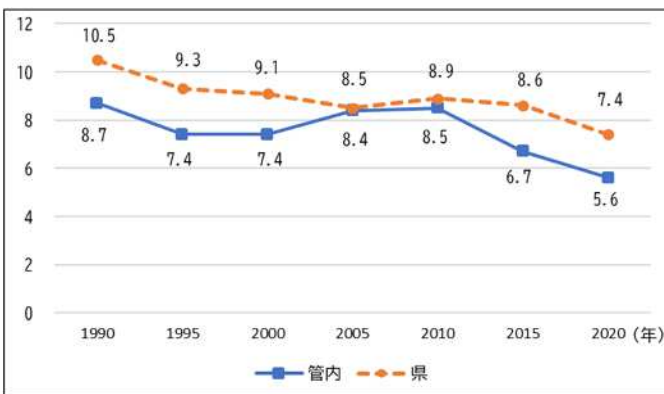
【地域別】

(単位：人、%)

|         | 2020年<br>国勢調査<br>(A) | 2045年推計<br>(B) | (B)/(A) |
|---------|----------------------|----------------|---------|
| 鹿児島地域   | 668,916              | 557,785        | 83.4    |
| 南薩地域    | 125,011              | 76,372         | 61.1    |
| 北薩地域    | 193,615              | 137,654        | 71.1    |
| 始良・伊佐地域 | 233,055              | 185,511        | 79.6    |
| 大隅地域    | 223,828              | 154,172        | 68.9    |
| 熊毛地域    | 39,550               | 25,913         | 65.5    |
| 大島地域    | 104,281              | 66,739         | 64.0    |
| 県計      | 1,588,256            | 1,204,146      | 75.8    |

出典：2020年の人口 国勢調査〔総務省〕  
 その他の年の推計人口 日本の地域別将来推計人口(2018年推計)  
 [国立社会保障・人口問題研究所]

### 出生率の推移 (人口千対)



出典：人口動態統計〔厚生労働省〕  
 県衛生統計年報〔県保健医療福祉課〕

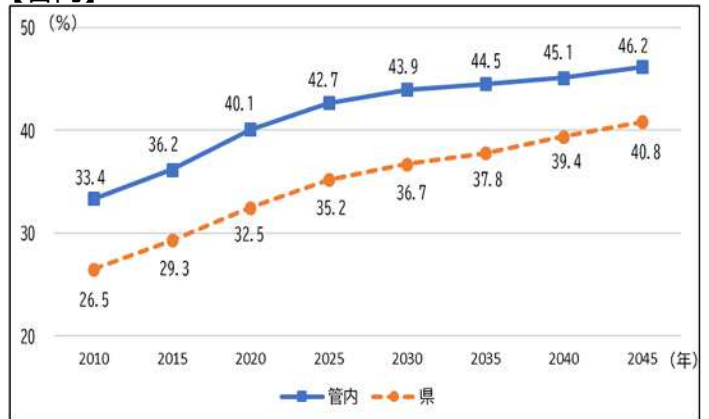
- 管内の推計人口は、2045年には2020年比61%の76千人と推計され、県内で最も急激に人口減少が進む地域と見込まれている。
- 出生率は、県平均を1.8ポイント下回る5.6‰であり減少傾向にある。

課題

- 働き手不足による産業の衰退
- 中山間地域等の活力衰退
- 魅力ある地域づくり
- 安心して子育てができる地域づくり
- 移住・交流の促進と関係人口の創出・拡大

### 高齢化率の予測

【管内】



出典：国勢調査〔総務省〕  
 2025年以降は日本の地域別将来推計人口(2018年推計)  
 から機械的に試算

【地域別】

(単位：%)

|         | 2020年<br>国勢調査<br>(A) | 2045年推計<br>(B) | (B)-(A) |
|---------|----------------------|----------------|---------|
| 鹿児島地域   | 29.2                 | 38.7           | 9.5     |
| 南薩地域    | 40.1                 | 46.2           | 6.1     |
| 北薩地域    | 34.8                 | 42.0           | 7.2     |
| 始良・伊佐地域 | 31.2                 | 40.3           | 9.1     |
| 大隅地域    | 35.7                 | 41.7           | 6.0     |
| 熊毛地域    | 37.5                 | 46.0           | 8.5     |
| 大島地域    | 35.1                 | 46.5           | 11.4    |
| 県       | 32.5                 | 40.8           | 8.3     |

出典：2020年は国勢調査〔総務省〕  
 2045年は日本の地域別将来推計人口(2018年推計)  
 から機械的に試算

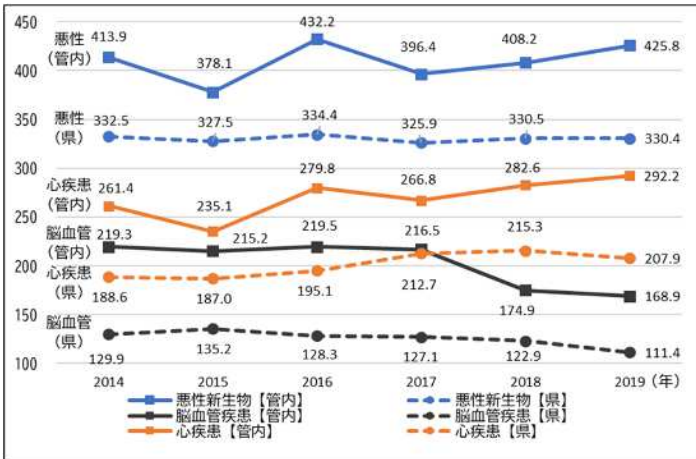
- 2020年において高齢化率が県下最高であり、2045年には人口の46%が高齢者と見込まれている。

課題

- 高齢者が健やかで生きがいを持てる地域づくり
- 住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられる地域包括ケアの推進

## 2 健康で長生きできる地域社会の実現

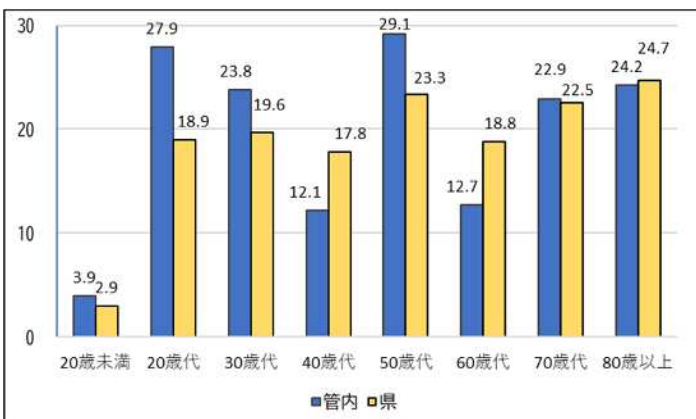
### 生活習慣病死亡率の推移（人口10万対）



出典：県人口動態調査統計表【県保健医療福祉課】

- 管内の生活習慣病の死亡率は、県平均に比べ全ての疾患で高い。
- 特に脳血管疾患の死亡率は県平均の1.5倍と高い水準にある。

### 年代別自殺死亡率（人口10万対）2017～2021年平均値



出典：自殺統計【厚生労働省】

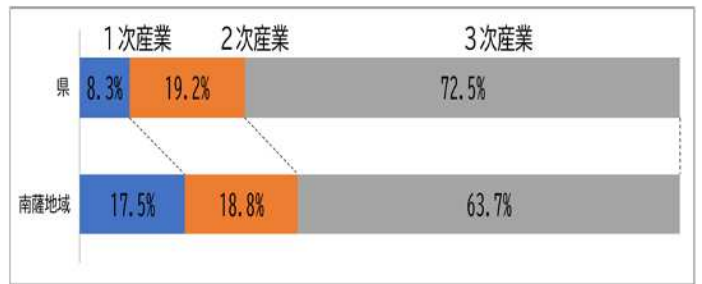
- 管内の自殺死亡率は、40代、60代、80代以上を除き県平均を上回っており、特に20代及び50代が県平均に比べ高い水準にある。

#### 課題

- 生活習慣の改善
- 実践的な自殺対策
- 様々な感染症への対応

## 3 南薩の「稼ぐ力」（南薩管内の経済の現状）

### 産業別就業人口



出典：2020年国勢調査【総務省】

### 人口に占める生産年齢人口（15～64歳）の割合

| 地域 | 鹿児島  | 南薩   | 北薩   | 始良・伊佐 | 大隅   | 熊毛   | 大島   | 県    |
|----|------|------|------|-------|------|------|------|------|
| 割合 | 57.8 | 48.7 | 52.1 | 55.0  | 51.1 | 49.5 | 51.0 | 54.4 |

出典：2020年国勢調査【総務省】

### 1人当たりの市町村所得の推移

（単位：千円）

|         | 2011年度 | 2013年度 | 2015年度 | 2017年度 | 2019年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 鹿児島地域   | 2,443  | 2,549  | 2,603  | 2,737  | 2,740  |
| 南薩地域(A) | 2,025  | 2,095  | 2,165  | 2,341  | 2,307  |
| 北薩地域    | 2,128  | 2,273  | 2,348  | 2,590  | 2,483  |
| 始良・伊佐地域 | 2,188  | 2,265  | 2,336  | 2,533  | 2,459  |
| 大隅地域    | 2,102  | 2,169  | 2,270  | 2,480  | 2,455  |
| 熊毛地域    | 2,069  | 2,151  | 2,201  | 2,428  | 2,398  |
| 大島地域    | 2,008  | 2,068  | 2,141  | 2,329  | 2,371  |
| 県(B)    | 2,242  | 2,338  | 2,407  | 2,585  | 2,558  |
| (A)/(B) | 90.3   | 89.6   | 89.9   | 90.6   | 90.2   |

出典：市町村所得推計【県統計協会】

- 産業別就業人口は県平均と比べ1次産業の割合が高く、3次産業の割合が低い。
- 南薩地域は、人口に占める生産年齢人口の割合が、県平均と比較して5.7ポイント低い。
- 2011年度以降の1人当たりの市民所得の管内平均は、県平均に比べ90%前後となっている。2019年度は、2,307千円で県平均と比較すると25万円の差が生じている。

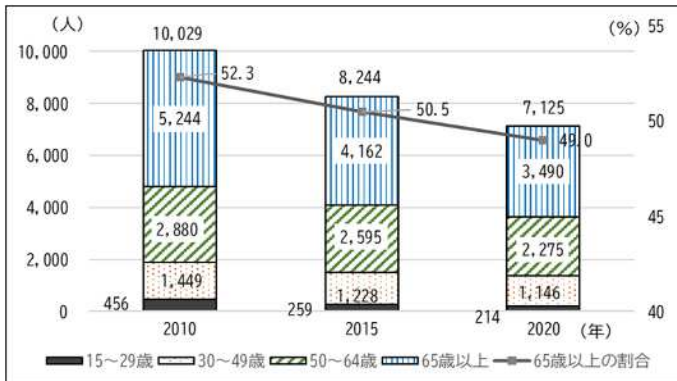
#### 課題

- 働き手不足による産業の衰退（再掲）
- 移住・定住の促進
- 市民所得の向上



### 3-1 農林水産業の「稼ぐ力」

#### 管内の農業就業人口の推移



出典：農林業センサス〔農林水産省〕

#### 管内の農産物販売金額1億円以上の経営体の推移

単位：経営体

| 区分      | 2010年 | 2015年 | 2020年 |
|---------|-------|-------|-------|
| 経営体     | 5,630 | 4,895 | 3,778 |
| うち1億円以上 | 76    | 86    | 82    |

出典：農林業センサス〔農林水産省〕

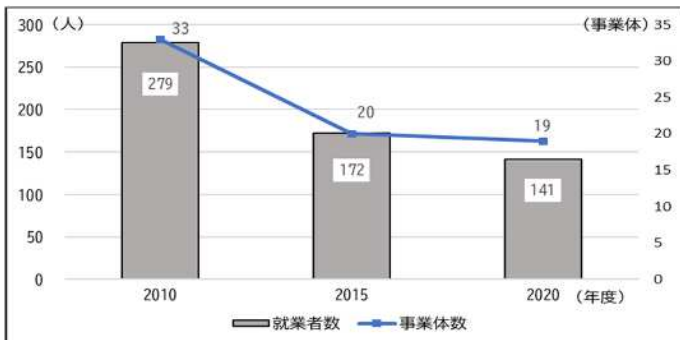
#### 管内の経営耕地面積10ha以上の経営体の推移

単位：経営体

| 区分       | 2010年 | 2015年 | 2020年 |
|----------|-------|-------|-------|
| 経営体      | 5,630 | 4,895 | 3,778 |
| うち10ha以上 | 161   | 213   | 255   |

出典：農林業センサス〔農林水産省〕

#### 管内の林業就業人口の推移



出典：県森林経営課調べ

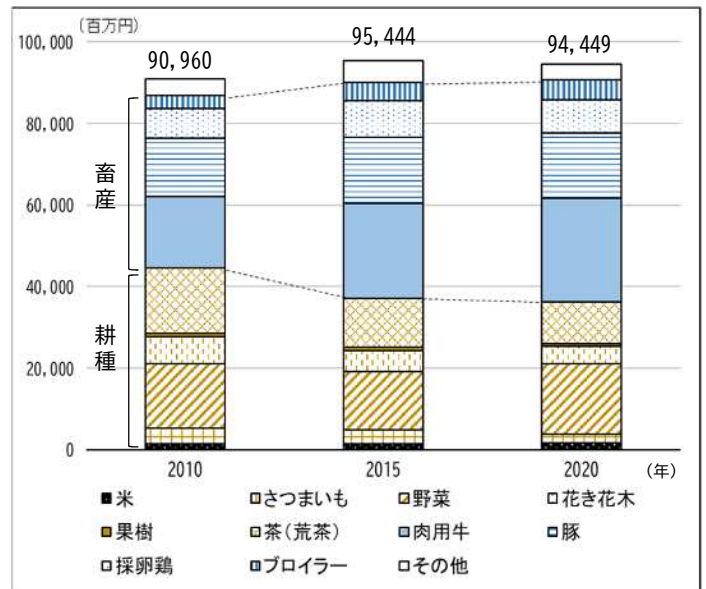
#### 管内の水産業就業人口の推移



出典：漁業センサス〔農林水産省〕

- ・農業就業人口は10年間で29%減少している。2020年における65歳以上の割合は49%と減少傾向にある。10ha以上の経営体数が10年間で1.6倍に増加しており、規模拡大が進んでいる。
- ・林業就業人口は10年間で50%減少している。
- ・水産業就業人口は10年間で35%減少している。

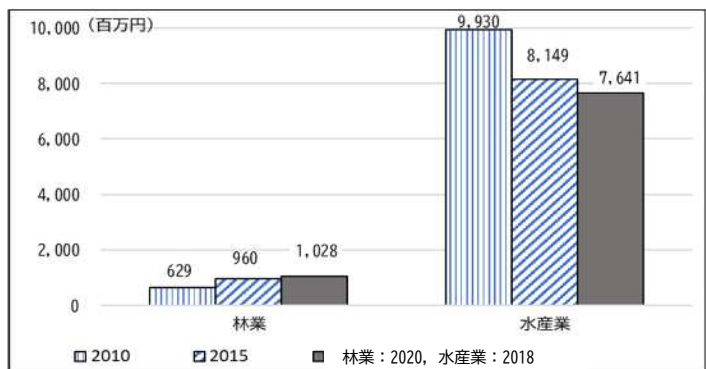
#### 管内の農業産出額の推移



出典：南薩局農政普及課調べ

- ・農業産出額は、10年間で約35億円増加(104%)
- ・耕種作物が減少する中、畜産が約121億円増加(128%)している。

#### 管内の林業生産額・水産業生産額の推移



出典：林業生産額 南薩局林務水産課調べ  
水産業生産額 県水産振興課調べ

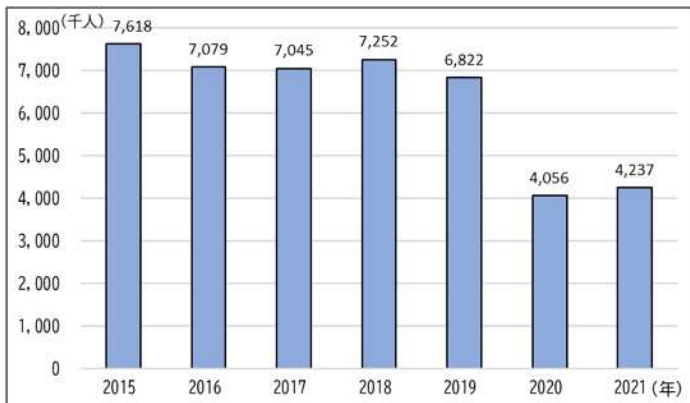
- ・林業生産額は、10年間で約4億円増加(163%)している。
- ・水産業生産額は、8年間で約23億円減少(77%)している。

#### 課題

- ・担い手や新規就業者の確保
- ・快適で魅力ある農山漁村づくりと中山間地域等の活性化
- ・地域経済を支える基幹産業である農林水産業の振興
- ・有機農業など環境に配慮した技術の普及・拡大
- ・担い手への農地の集積・集約化、荒廃農地の発生防止・解消
- ・先端技術を活用したスマート農林水産業の導入・普及
- ・かごしまブランドに対する消費者の認知度向上と有利販売への取組
- ・農林水産物の輸出促進に向けた取組

### 3-2 観光の「稼ぐ力」

#### 管内入込客数の推移



出典：南薩局総務企画課調べ

- 管内の入込客数は、2015年は762万人だったが、その後、2018年までは705～725万人で推移し、2019年には682万人に減少している。
- 2021年は、2020年から18万人改善したが、コロナ以前の62%程度となっている。

#### J R 指宿枕崎線の平均通過人員(人/日)の推移

| 1987年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 942    | 291    | 277    | 255    |

出典：線区別ご利用状況【JR九州】

- 33年前に比べ73%減の255人となっており、減少が続いている。

課題

- 多様な観光ニーズへの対応
- 魅力ある観光地の形成
- 効果的なPRの推進
- ホスピタリティの向上
- 交流人口の拡大
- J R 指宿枕崎線の利用促進

### 3-3 企業の「稼ぐ力」

#### 管内の第2次産業と3次産業の総生産額の推移



出典：市町村民所得推計【県統計協会】

- 第2次産業及び第3次産業の総生産額は増加傾向にあるが、県全体に占める割合は増えていない。

#### 高卒者の県内就職率の推移



出典：学校基本調査【文部科学省】

※「就職者数【管内】」は、管内の高校を卒業時に就職した生徒数

- 管内の高校を卒業する生徒の県内就職率は、県全体の平均より若干高かったが、近年は低下傾向にあり、2021年3月卒業生では県平均を下回っている。

課題

- 人材の確保
- 新たな産業の創出
- 生産性と付加価値の向上
- 中小企業の新規事業展開、デジタル化
- 高度デジタル人材の確保・育成
- 多様な働き方への対応

## 4 デジタル化, 環境問題

### 本県の人口に対するマイナンバーカードの交付枚数率の推移



出典：総務省資料

- ・マイナンバーカードはオンラインで本人確認ができるため、デジタル化の基盤としてその普及拡大の重要性が増しているが、人口に対する交付枚数率は、全国が39.9%であるのに対し、本県は37.5%と低い水準にある。

### 課題

- ・暮らし、産業、行政等におけるデジタル化の遅れ
- ・デジタル推進基盤の強化
- ・デジタル人材の活用・確保・育成

### ごみの排出量等の推移



出典：県 一般廃棄物処理実態調査結果 [環境省] 管内 南薩地域振興局衛生・環境課調べ

- ・管内のごみの排出量は減少傾向にあり、1人1日当たりのごみの排出量も近年は県平均を下回っている。

### 管内の再生可能エネルギー

|       | 種別・名称           | 出力(MW) | 運転開始   | 発電事業者           |
|-------|-----------------|--------|--------|-----------------|
| 地熱    | 山川地熱発電所         | 30.00  | H07.03 | 九州電力(株)         |
|       | メディポリス指宿発電所     | 1.58   | H27.02 | (株)メディポリスエナジー   |
|       | 山川バイナリー発電所      | 4.99   | H30.02 | 九電みらいエナジー(株)    |
| バイオマス | 木質バイオマス発電所      | 1.99   | R02.10 | 枕崎バイオマスエナジー(同)  |
| 小水力   | 麓川発電所           | 0.20   | T09.01 | 九州電力(株)         |
|       | 万之瀬発電所          | 5.00   | S34.05 | 九州電力(株)         |
|       | 金峰発電所           | 0.17   | H16.04 | 金峰町土地改良区        |
|       | 川辺ダム小水力発電所      | 0.38   | H31.02 | 鹿児島県            |
| 太陽光   | ソーラーファーム南さつま発電所 | 30.74  | R01.11 | (同)ソーラーファーム南さつま |
|       | リエネRJ南九州太陽光発電所  | 25.76  | R02.07 | (同)南九州穎娃        |
|       | GPD牧之内太陽光発電所    | 24.69  | R02.02 | GPDすいせんソーラー(株)  |
|       | 指宿山川太陽光発電所      | 17.59  | R02.03 | 未来創電指宿山川(同)     |
| 風力    | 穎娃風力発電所         | 16.0   | H22.03 | 穎娃風力発電(株)       |
|       | 番屋風力発電所         | 17.5   | H16.03 | (株)鹿児島風力発電研究所   |
| 管内計   |                 | 176.6  |        |                 |

※太陽光及び風力については出力10MW以上の施設を記載

出典：南薩局総務企画課調べ

- ・管内には、再生可能エネルギー発電施設が14施設あり、総出力は176MWである。

### 課題

- ・循環型社会の形成
- ・多様な自然環境の保全・再生
- ・多様で健全な森林づくりの推進
- ・温室効果ガスの更なる排出削減
- ・再生可能エネルギーの導入

# 5 南薩地域の社会資本整備と防災・減災対策

## 管内の道路整備状況

| 道路の種類 | 路線数   | 延長<br>(km) | 改良済        |            |                   |      |
|-------|-------|------------|------------|------------|-------------------|------|
|       |       |            | 延長<br>(km) | 改良率<br>(%) | 県全体<br>改良率<br>(%) |      |
| 一般国道  | 国管理   | 2          | 41.8       | 41.8       | 100.0             | 99.9 |
|       | 県管理   | 4          | 141.9      | 136.7      | 96.3              | 98.4 |
|       | 国道計   | 5          | 183.7      | 178.5      | 97.1              | 98.9 |
| 県道    | 主要地方道 | 10         | 145.2      | 140.5      | 96.7              | 91.5 |
|       | 一般県道  | 27         | 192.9      | 163.4      | 84.6              | 75.7 |
|       | 県道計   | 37         | 338.1      | 303.8      | 89.8              | 82.8 |
| 国・県道計 |       | 42         | 521.8      | 482.3      | 92.4              | 87.0 |
| うち県管理 |       | 41         | 480.0      | 440.6      | 91.7              | 85.8 |

※「改良済」は、道路構造令等の規格に適合しているもの  
出典：令和2年度道路現況調査〔県道路維持課〕

- 管内の道路の改良率は92%で、県平均の87%を上回っている。
- 国道226号（県管理）は、2車線を確保できない区間が約14km残っている。

## 管内の県管理河川の整備状況（延長10km超）

| 水系河川 | 河川数 | 管理延長<br>(km) | 要改修<br>(km) | 改修済<br>(km) | 改修率<br>(%) | 未改修<br>(km) | 改修不要<br>(km) |
|------|-----|--------------|-------------|-------------|------------|-------------|--------------|
| 万之瀬川 | 23  | 150.90       | 122.30      | 50.70       | 41.5       | 71.60       | 28.60        |
| 大浦川  | 6   | 16.60        | 15.00       | 8.30        | 55.3       | 6.70        | 1.60         |
| 花渡川  | 3   | 16.90        | 16.10       | 10.20       | 63.4       | 5.90        | 0.80         |
| 加治佐川 | 2   | 13.70        | 12.70       | 1.60        | 12.6       | 11.10       | 1.00         |
| 馬渡川  | 2   | 13.60        | 10.20       | 2.40        | 23.5       | 7.80        | 3.40         |
| 新川   | 3   | 18.50        | 18.00       | 4.80        | 26.7       | 13.20       | 0.50         |

※「改修済」は、60mm/h相当の降雨で、はん濫しないよう河道が確保されているもの  
出典：南薩局河川港湾課調べ

- 県で管理する河川は、20水系54河川あり、改修率は42.8%であり、県平均の46.5%を下回っている。
- 令和元年に大浦川水系大王川ではん濫があった。

## 管内の危険渓流・危険箇所整備状況

| 区分          | 土石流<br>危険渓流<br>(渓流) | 急傾斜地<br>崩壊<br>危険箇所<br>(箇所) | 地すべり<br>危険箇所<br>(箇所) | 合計     |
|-------------|---------------------|----------------------------|----------------------|--------|
| 危険渓流・箇所     | 255                 | 451                        | 22                   | 728    |
| うち要施工(A)    | 255                 | 294                        | 22                   | 571    |
| R1迄の概成数(B)  | 80                  | 141                        | 8                    | 229    |
| 整備率 (B)/(A) | 31.4 %              | 48.0 %                     | 36.4 %               | 40.1 % |

出典：南薩局河川港湾課調べ

- 管内に土石流危険渓流、急傾斜地崩壊及び地すべり危険箇所は728か所あり、このうち571か所が対策を要する箇所である。
- 管内の整備率は40%で、県平均の36%を上回っている。
- 平成27年に南さつま市平崎地区で大規模な地すべり災害があった。

## 管内の土砂災害警戒区域の指定状況

| 市町名   | 警戒区域        |     |      |       | うち特別<br>警戒区域 |
|-------|-------------|-----|------|-------|--------------|
|       | 急傾斜地<br>の崩壊 | 土石流 | 地すべり | 計     |              |
| 枕崎市   | 209         | 18  | 1    | 228   | 183          |
| 指宿市   | 132         | 98  | 6    | 236   | 202          |
| 南さつま市 | 679         | 203 | 14   | 896   | 707          |
| 南九州市  | 356         | 149 | 0    | 505   | 416          |
| 計     | 1,376       | 468 | 21   | 1,865 | 1,508        |

出典：南薩局河川港湾課調べ

- 管内に警戒区域は1,865か所あり、このうち1,508か所が特別警戒区域となっている。
- 地元説明会を開催し、随時追加指定を行っている。

### 課題

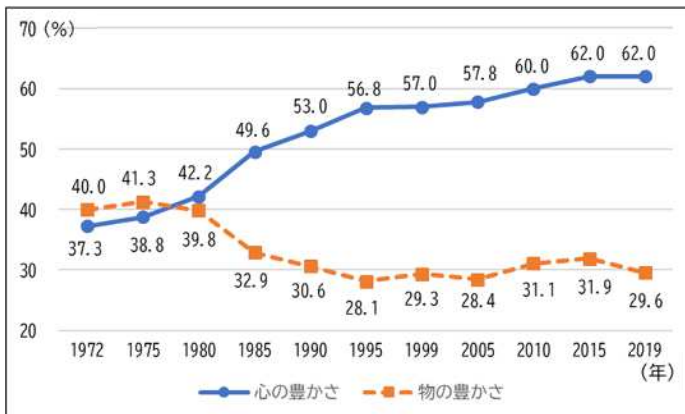
- 主要幹線道路及び生活幹線道路のネットワークの強化
- 気候変動に伴う大雨の増加等による自然災害への対応
- 安心・安全な地域社会づくり



# 6 価値観・ライフスタイルの変化と地方回帰への対応

## 価値観等に関する調査結果

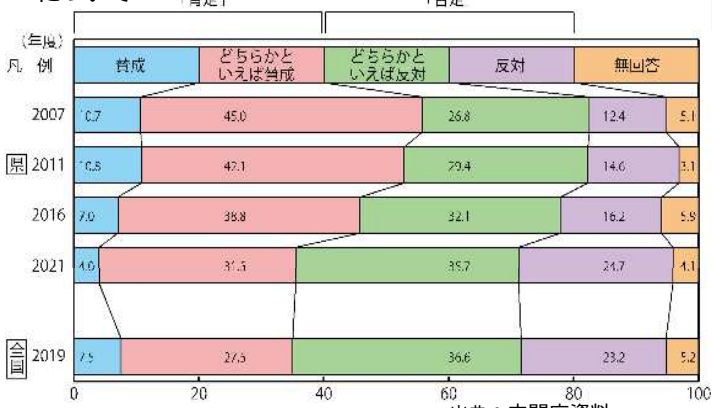
- 「心の豊かさ」と「物の豊かさ」のどちらを重視するか【全国調査】



出典：国民生活に関する世論調査【内閣府】

- ・ 「心の豊かさ」を重視する人の割合は、年々高まっており、2019年は62%となっている。

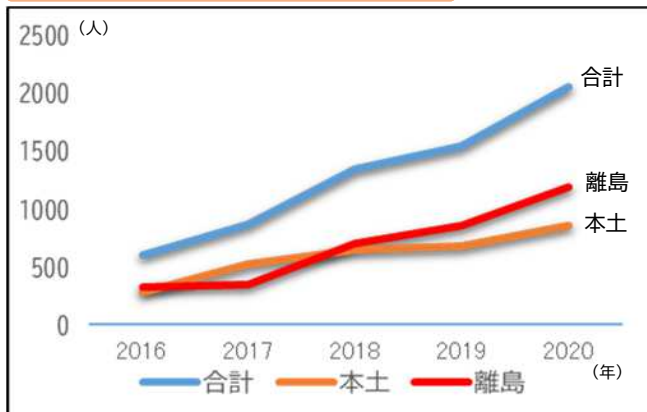
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



出典：内閣府資料  
県男女共同参画局資料

- ・ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えを肯定する県民の割合は、2007年は56%だったのに対し、2021年は36%に減少している。

## 本県への移住者数の推移



出典：総合政策部調べ

- ・ 本県への移住者数は着実に増加しており、最近では離島地域への移住者数が伸びている。

## 東京圏在住者の東京圏以外の地域での暮らしに関する意識等調査

- ・ 東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）在住者の49.8%が「地方暮らし」に関心を持っている。
- ・ 地方圏出身者に限れば6割強が関心を持っており、東京圏出身者よりも高い。
- ・ 若い方が「地方暮らし」への関心が高い傾向が見られる。
- ・ 「地方暮らし」を意識したのは、東京圏出身者は「旅行」、地方圏出身者は「将来のライフプランを考えたこと」がきっかけ
- ・ 発信してほしい情報は「仕事」と「住まい」に関するもの
- ・ 地方圏出身者の20代・30代が地元に戻らない理由は「コミュニティが狭すぎる」「仕事がないこと」等が挙げられた。
- ・ 女性特有の理由として「帰りたいのに、地元の価値観（女性への偏見等）になじめない」という意見が聞かれた。

出典：「東京圏以外の地域での暮らし」の意識・行動を把握するためのWEBアンケート調査・グループインタビュー【2020年内閣官房】

## 課題

- ・ 移住・交流の促進と関係人口の創出・拡大
- ・ 女性が活躍できる地域づくり

# 7 教育環境の充実と共生・協働の取組の推進

## 子どもの貧困率

全国：13.5% (2018年)  
 本県：12.9% (2016年)  
 ※母子世帯では40%

・地域別のデータはないが、南薩地域においても概ね県平均と同様の貧困率になるものと見込まれる。

## 子どもの虐待相談件数 (令和2年度)

本県の3児童相談所取扱分 2,787件  
 市町村取扱分 695件

## いじめの認知件数 (令和2年度)

※児童・生徒1,000人当たりの認知件数  
 全国：39.7件  
 本県：48.4件  
 管内：43.4件

・管内のいじめ認知件数は、全国平均より高く、県平均より低い。  
 ・学校において、いじめを軽微なものを含め、積極的に認知し、その解消に向けて取り組んでいる状況である。

## 管内の学校規模の状況 (令和4年度)

※児童・生徒数が100人未満の公立小中学校、義務教育学校数  
 小学校：23校／41校  
 中学校：5校／16校  
 義務教育学校：0校／1校

・児童・生徒数が100人未満の学校数は、小学校で56%、中学校で31%となっており、児童・生徒数の減少により、増加傾向にある。

課題

- ・複雑化、多様化する子どもを取り巻く問題への対応
- ・学校数が減少する中における、持続的で魅力ある学校教育の実施
- ・子どもたちが健やかに育ち、希望をもって成長していくことができる環境整備
- ・鹿児島県の発展を牽引する人材の育成

## 本県のNPO法人数 (2021年12月末)

人口10万人当たり 54.15 (全国4位)

## 管内のNPO法人数 (2022年3月末)

| 枕崎市 | 指宿市 | 南さつま市 | 南九州市 | 管内計 |
|-----|-----|-------|------|-----|
| 12  | 13  | 15    | 13   | 53  |

### 【管内のNPO法人の活動例 (設立目的)】

- 子育てふれあいグループ自然花 (枕崎市)  
親子を対象とした宿泊・体験事業を通じて家族関係の良化を図り、また、学童保育事業・一時預かり事業・子育てサロン事業・相談事業を行うことにより、子育てが社会の中で安心して行える環境づくりに寄与する。
- 本と人をつなぐ「そらまめの会」 (指宿市)  
広く市民に対し、図書館を活動拠点として本に関心を持つ個人や団体等と連携を図りながら交流と学習の機会をつくり、良好な読書環境づくり及び地域文化の継承に努めることにより、子どもを育てやすい地域社会の形成に寄与する。
- プロジェクト南からの潮流 (南さつま市)  
文化的活動やまちづくり、環境保全、社会教育及び子どもの健全育成を図る事業を行い、文化の振興に寄与する。
- 穎娃おこそ会 (南九州市)  
地域に根ざした幅広い分野でのまちづくり推進活動及びそれに関連する事業を行い、「いつまでも住みたい魅力あるまち」の実現に寄与する。

・県における人口10万人当たりのNPO法人数は全国4位と高い水準にある。  
 ・ボランティア活動の年間行動率も全国平均を上回っており、本県には地域における「互助」の精神が息づいており、地域の課題に地域が取り組む素地がある。

課題

- ・NPO法人など地域の方々と連携した地域課題の解決、地域の活性化に向けた取組みの促進